

# No.6 「日々の暮らしに笑顔と安心を」 ～コミュニケーションからの小さな気づき～

特別養護老人ホーム梅寿荘 サルビアカトレアユニット  
岡崎友彦・羽山浩世・西駒貴・鍋島孝美・吉村智子

## 1. 背景

梅寿荘では、各グループがケア向上に資する今年度の目標を決めて取り組み、年度末に その成果と今後の展望を発表することとした。

## 2. 目的

グループでの取り組みを発信することで、ケアの成果と課題を明らかにし、成長につなげるため。施設全体のケアの質向上をはかるため。

## 3. 目標の設定

◎年度初めにグループとして大切にしたいことを確認した。

**「ご利用者の細やかな観察による気づき」「ご利用者の笑顔と安心感」  
「ここに入居して良かったと思っただけのように関わっていく」**

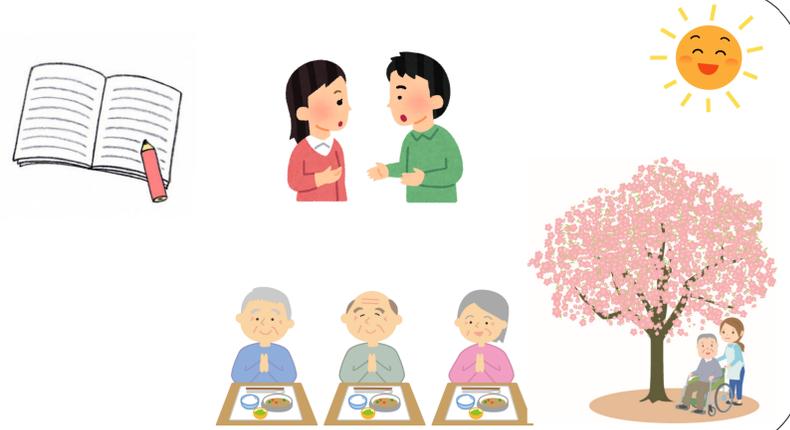
グループ目標

- ①「ご利用者とのコミュニケーションと、楽しみを大切にすること」
- ②「職員間のコミュニケーションの中で、気づきをチームで共有していくこと」
- ③「気づきの共有から、具体的ケアを提案、実践し、ケアを振り返ること」



## 4. 具体的方法

- ①月1回程度のユニット行事の継続(誕生日会、他)
- ②申し送りノートからの発信→会議を待たずにケアを試行、報告。
- ③毎月グループ会議開催→気づきによるケアの具体化と実践。
- ④職員へのインタビュー調査



## 5. 気づきの具体例とケアの展開例

- ・スキントラブルへの気づき → 毎日の丁寧な陰部洗浄と、姿勢ケアの実践。
- ・便秘へのケア → 排便姿勢を整える、下剤の調整、オリゴ糖や食物繊維の添加など。
- ・整容を丁寧に → 爪切りチェック表作成や、居室担当者意識を高める取り組みなど。
- ・服薬ミスへの対応 → 事故検討会やセーフティー委員会での検討、改善策の立案と実践。
- ・業務記録の入力漏れへの対応 → 入力担当者と、入力時間を決める。



## 6. 結果と考察

- ①行事の継続により、非日常を共に楽しむことでご利用者の笑顔に触れ、ルーティン業務だけでは感じられないやりがいと達成感があった。
- ②申し送りノートはケアに関する最新情報の共有や更新が確認でき、リーダーを中心に気づきの発信を行うことで、気づきに基づくケアを試行、実践することができた。
- ③グループ会議でご利用者一人一人のケアを複数の視点で吟味することができた。グループの司会をローテーションで回すことで、会議に対して主体的に臨むことができた。
- ④対ご利用者、職員間のコミュニケーションに関する現況分析 ～インタビュー調査～

## 7. 今後の展望

- ①集団行事だけでなく、個別の希望についてもかなえていく工夫をしたい。行事の継続には引き続き感染症蔓延防止への対応、工夫も必要である。
- ②気づきの発信をスタッフ皆が意識していくことで、観察眼を養うことや、いつもと違う状況を共有することに繋がる。他部署職員による気づきも共有できるよう、意識していく。
- ③ご利用者個々についての話し合いに時間がかかり、時間管理と、会議の進め方を改良していくことが課題。
- ④インタビュー結果については、ポスター説明動画にて紹介しています。ぜひ動画をご覧ください！

**サルビア・カトレアユニットでは、ご利用者・職員共に「笑顔になれる楽しみ」と「安心を感じられるコミュニケーション」で「ここに来て良かったと思ってもらえるように」頑張っていきます！**